



B 13

2144



須川賢久 編述
小澤圭二郎 校正

改正
博物階梯

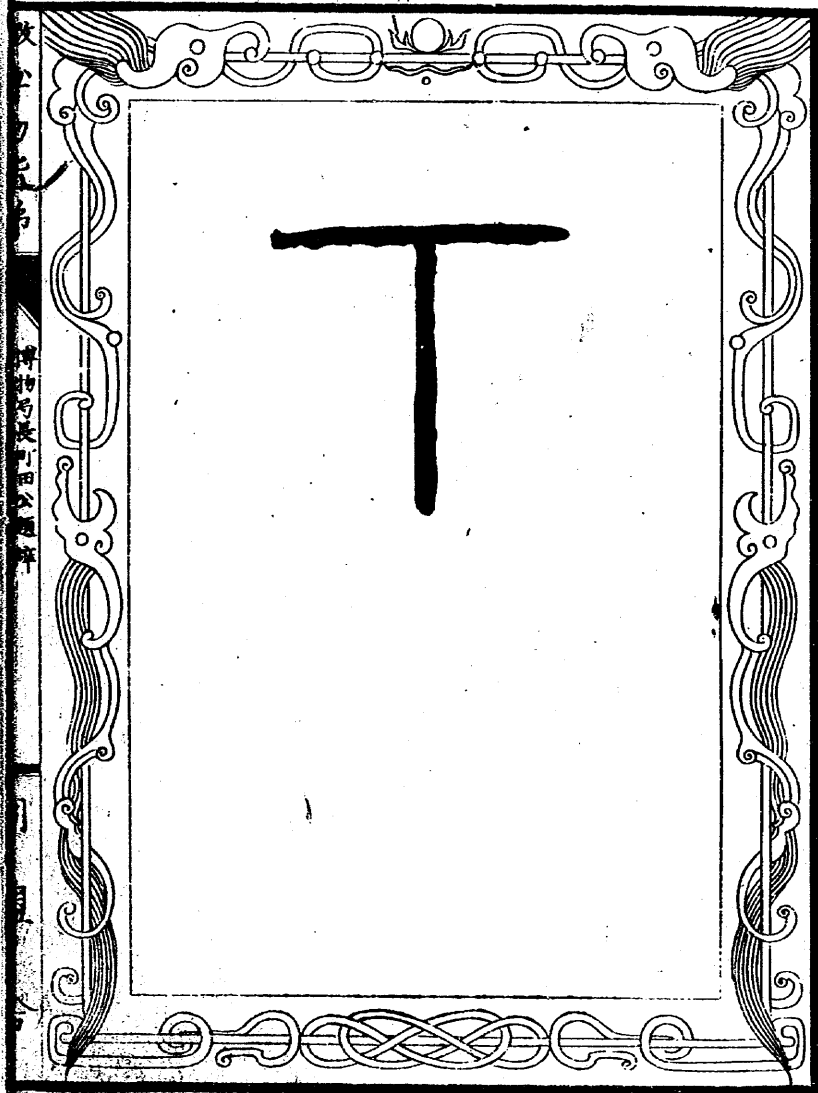
版權免許

同盟舍

東京
書局

用己





正博物階梯

石谷題

明治十四年

辛巳夏

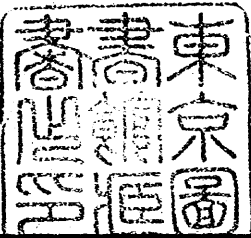
石谷題

正改博物階梯

凡例

一 此書ハ泰西ノ諸博物書ニ就テ彼是ヲ參考抄
譯シテ以テ編輯セリ然レモ小學用本ニ供ス
ルノ目途ナレバ唯博物學ノ大要ヲ簡擇シ兒
童ヲシテ之ヲ解得シ易カラシメンコトヲ主ト
ス

一 書中動植礦ノ引例ヲ記載スルニハ勉メテ内
國産ニシテ世人ノ日常認知セル所ノ者ヲ以
テス又外國ノミニ産シテ我邦ニ生セザル者



ハ姑ク原本ノ例ニ從ヒテ之ヲ加入スルモアリ又彼ニ在テハ極メテ必要ナレドモ我ニ於テハ太タ緊切ナラザル者ハ之ヲ節略シタルモアリ

一 通常ノ博物書ニハ有脊動物中二手類ノ如キ先ヅ人種ヲ説キ次ニ人体次ニ其生理ヲ論ズルモノ多ケレド本書ハ簡便ヲ主トシテ繁雜ヲ避クルガ為メニ之ヲ省略セリ

明治十四年中夏

須川賢久 識

改正 博物階梯卷之一目録

第一編

- ① 博物學ノ大意
- ② 博物學ノ功用
- ③ 動物總論

第二編

- ① 動物ノ區別
- ② 動物分類法

第三編

- ① 有脊動物

第一綱 哺乳類

② 第一目 兩手類

③ 第二目 四手類

④ 第三目 翅手類

⑤ 第四目 殺生類

第四編

① 第五目 齧齒類

② 第六目 無齒類

③ 第七目 雙蹄類

④ 第八目 單蹄類

⑤ 第九目 多蹄類 一名厚皮類

⑥ 第十目 游水類

⑦ 第十一目 袋獸類

⑧ 第十二目 鳥嘴類

第五編

① 第二綱 鳥類

② 第一目 鷲鳥類

③ 第二目 綠木類

④ 第三目 唱類

⑤ 第四目 鷄類

⑥ 第五目 走類

⑦ 第六目 涉類

⑧ 第七目 游類 一名掌足類

第六編

① 第三綱 爬蟲類

② 第一目 龜類

③ 第二目 蜥蜴類

④ 第三目 蛇類

⑤ 第四目 蝦蟆類

第七編

① 第四綱 魚類

大別
刺鱗類

軟鱗類

附
分目表

第八編

① 第二大部 無脊動物

附
分目表。

② 第一綱 多節類

③ 第二綱 柔軟類

④ 第三綱 多肢類

正改 博物階梯卷之一 目錄終

正改 博物階梯卷之一

須川賢久 編述

小澤圭二郎 校正

第一編

○博物學ノ大意

博物ク天造物ヲ考究スル學問ヲ博物學ト云フ天
造物トハ日月、星、人、獸、草、木、金、石ノ如キ自然ニ天
地間ニ現在セルモノ、總稱ニシテ其麗ハ億^{カス}ノ
ミナラズ廣大罔極ナリ

博物學ノ區域ハ至廣至大ニシテ無量億兆ノ天

造物ヲ通考スル者ナレバ只此地球ヲ構造スル
所ノ物ヲ論ズレバ之ヲ大別シテ有機體、無機體
ノ二種トシ更ニ之レヲ分チテ動物、植物、礦物、
三類トス
有機體トハ動物、植物ノ二類ニシテ共ニ生命アリ
テ長育繁殖シ滋養ニ資リテ生活ス人、畜、草、木
ノ如キ者即是ナリ
無機體トハ無生ノ礦物ニシテ動、植物ノ如ク死
生ノ期ナク又成長ノ性アルヲナシ然リト雖モ
往々同種物質ノ相聚合シテ其形狀次第ニ増大

スルヲアリ

③博物學ノ功用

博物學ヲ學ベバ博ク世界ノ事物ヲ知り止ニ見
聞ヲ廣ムルノミナラズ其智識ヲ開暢シ心思ヲ
發達シテ諸學ノ資助トナラシメ畢生許多ノ裨
益アルヤ量リ知ル可ラズ

抑天地萬物ハ造化主ノ著述セル一大部ノ書史
ニシテ博物學ハコレガ註疏タリ故ニ世人博物
學ヲ脩ムルトキハ萬物ノ道理ヲ會悟シ世用ニ
就キテ利益ヲ得ルヲ甚多シトス

正典博物志 卷二十一
三 動物總論

煦噓呼吸シテ以テ運動スル者ヲ動物ト云フ人、
獸、鳥、魚、蟲、介ノ類即是ナリ此諸動物ヲ總括シテ
動物界ト汎稱シ之ヲ考究スル學問ヲ動物學ト
唱フ

動物學ノ主意ハ地球上數百萬ノ動物ヲ調べテ
或ハ其名ヲ知り或ハ容貌、形狀ヲ覺エ或ハ生活
ノ方法及ビ習慣、性質ヲ吟味シ或ハ之ヲ實用ニ
供シテ世上ノ利益ヲ謀ルニ在リ

動物ハ天造物中第一等ニ位シ且生命知覺アリ

テ隨意ニ行住ヲ為スモノナリ其身體ヲ養育成
長セシムル為ノ食物ハ皆之ヲ口ヨリ取ル
動物ノ生活ハ專ラ體內機關ノ運營ニ由ル一ハ
唯動物ニノミ具フル所ニシテ活動及ビ知覺是
ナリ一ハ動、植共ニ具フル所ニシテ滋養及ビ繁
殖是ナリ

活動トハ身外諸般ノ動作ニシテ其様一ナラズ
能ク握リ能ク搏チ能ク走り能ク飛ビ能ク立チ
能ク坐シ能ク臥ス等ヲ云ヒ知覺トハ能ク視能
ク聽キ能ク嗅キ能ク味ヒ能ク感ズル等ヲ云フ

滋養トハ身體ノ康健ヲ保全スル為ニ飲ミ且食
ヒシ處ノ物ヲ體內ニテ消化シ其養分ヲ資用ス
ルヲ云ヒ繁殖トハ其種類ヲ増加シテ之ヲ繼續
スルヲ云フ

第二編

○動物ノ區別

現今地球上ニ生活スル所ノ動物ハ其種類極テ
多ク大凡二十五萬種アリト云フ此許多ナル動
物ノ種類ヲ區分シテ詳細ニ之ヲ辨晰シ其容貌
性質等ヲ討論スルハ是即動物學ノ任ナリ

動物學ヲ一科ノ學問トシテ初テ之ヲ教授セシ
ハ希臘ノ大學者アリストートル氏ヲ鼻祖トス
其說ハ動物ヲ有血動物ト無血動物トノ二類ニ
分テリ爾後瑞典ノ大學士林娜斯氏出ルニ及ビ
アリストートル氏ノ說ヲ改正シ更ニ諸動物ヲ
大別シテ六綱ニ分テリ爾來學術ノ日新進步ス
ルニ從ヒテ尚其不全ヲ補ヒ始テ分類法ヲ確定
シタリ

分類法トハ無慮千萬ノ動物ヲシテ瞭然一目ノ
下ニ其類ヲ辨識セシムルノ法ナリ之ヲ略言セン

ニ茲ニ數類ノ動物ヲ並ベテ之ヲ比フレバ其似タル所ノ多キモノアリ亦其異ナル所ノ多キモノアリ故ニ博物家ハ彼ヲ比ベ此ヲ較ベ其相似タルモノヲ統括シテ一類ト為シ此類凡ソ若干ヲ定立シテ之ヲ動物分類法ト名ク

③動物分類法

諸動物ヲ大別シテ有脊動物、無脊動物ノ二部トス。有脊動物トハ脊骨アルモノヲ云フ即人類、獸類、鳥類、蛙類、魚類等ノ如シ又無脊動物トハ脊骨無

キモノヲ云フ即墨魚、蝸牛、牡蠣、蝶、蜂、蜘蛛、蚊、蚤等ノ如キ是ナリ

有脊、無脊ノ兩部ヲ分ケテ綱トナシ綱ヲ分ケテ目トナシ目ヲ分ケテ屬ト為シ屬ヲ分ケテ種ト為ス動物學ニ志スモノハ必ず先ヅ此綱、目、屬、種ノ區別ヲ辨知スベシ能ク之ヲ認知スレバ則偶然動物ヲ見ルトモ速ニ其何綱、何目中ノ物タルヲ想起シ直ニ之ヲ實用ニ供シ得可シ種トハ各動物一種ノ名ニシテ猶犬、猫、馬ト云フカゴトシ屬トハ同一族ノ名ニシテ假令ハバ獅

子、虎、豹ノ如キハ猫ト同ジキ爪ヲ具ヘ尚且猫ニ
類似セル處少ナカラザルヲ以テ之ヲ猫屬ト名
ク目トハ屬ヲ集合シタル者網トハ目ヲ集合シ
タル者ナリ

有脊動物ヲ分ケテ四網トス曰ク哺乳類、曰ク鳥
類、曰ク爬蟲類、曰ク魚類是ナリ

第三編

①有脊動物

第一網 哺乳類 又胎生類 ト云フ

哺乳類ハ皆胎生ニシテ兒ヲ産スルヤ直ニ其母

ノ乳ヲ飲ミテ育ツモノ、總稱ナリ故ニ哺乳類
ト名ク人類、獼猴、蝙蝠、熊、牛、羊、犬、猫ノ類及ビ鯨、海
豚等即是ナリ

哺乳類ハ有脊動物中ノ第一等ニ居リ多クハ陸
ニ棲ムト雖モ或ハ水陸共ニ棲ミ或ハ唯水ニ棲
ム者アリ皆肺臟ヲ以テ呼吸ス其血ハ赤色ニシ
テ温暖ナリ又此類ハ毛ヲ被フ者多ケレモ稀ニ
ハ刺ヲ具フル者アリ或ハ角狀ノ甲又鱗ヲ具フ
ル者アリ

各種ノ哺乳類ハ大略人類ト同様ノ骨骼ヲ成セ

リ獼猴ノ頭骨ハ人ノ頭骨ニ能ク似タレド其外
ノ哺乳類ニ至リテハ太タ差異アリ殊ニ腭骨ノ
甚シク前ニ挺出スルト頭顱ノ最小ナルヲニ至
リテハ大ニ同ジカラズ
又哺乳類ハ総テ上下ノ腭ニ齒アリテ其形狀大
小、負數、位置等食物ノ差異ニ從ヒ各同一ナラス
ト雖氏之ヲ門齒イキバ、牙齒ウキバ、齧齒クサバノ三ニ分ツ又食蟻獸アリクビ
ノ如キハ全ク齒ヲ具フルヲナシ
齒ノ負數、位置、區別等ヲ示ス為ニ次ニ舉ル如キ
簡便ノ符号アリ其橫劃上ニアル數字ハ上腭ノ

齒數ヲ示シ下ニアルハ下腭ノ齒數ヲ示ス
人齒ハ即五—四—五ナリ中央ノ四ハ門齒ニシテ次ノ
一ハ牙齒ナリ左右兩端ノ五ハ齧齒ニシテ上下
合セテ三十二枚ナリ
今茲ニ齒ノ異同ト四肢ノ形狀トニ隨ヒ哺乳類
ヲ分ケテ十二目トス即兩手類、四手類、翅手類、殺生
類、齧齒類、無齒類、雙蹄類、單蹄類、多蹄類、游水類、袋
獸類、鳥嘴類是ナリ

③第一目 兩手類 即人類

人類ハ動物中第一位ニ居リ其形狀ハ他ノ哺乳

類ニ畧相似タル所アレド威風昂然トシテ靈智ト是非分別ノ性ヲ有スルトヲ以テ他ノ諸動物ニ卓越セリ其種類構造等ハ生理書地理書ニ詳ナルヲ以テ之ヲ略ス

③第二目 四手類 即獼猴類

獸類中最モ人間ニ近キモノハ獼猴類ナリ此類ハ四肢共ニ手ニシテ足ナク面部ト掌トヲ除クノ外ハ全身悉ク毛ヲ被ヘリ其形狀ハ人ニ似タリト雖凡人ノ言語ヲ解スルヲナク下顎ハ額ヨリモ頗ル前ニ挺出シテ唇薄ク或ハ頬ニ嚙アル

モノアリ

四手類ハ各國ノ暖地ニ産シ多クハ林中ニ棲ミ常ニ果實草根蟲類ヲ食フ其性甚狡猾ニシテ體軀尤輕捷ナリ故ニ樹枝ヲ攀緣シ樹幹ヲ登降スルヲ頗ル自由自在ナリ

獼猴ハ其種類極メテ多ク或ハ長尾アリ或ハ短尾アリ我國ニ産スル者ハ大抵尾ナシ南亞米利加ニ産スル轉禺ヤバジウハ尾甚長クシテ其端ヲ樹枝ニ纏ヒ身ヲ懸ケテ空ニ翻ルト云フ

獼猴ハ我國諸州ニ産シテ通常身長二尺四五寸

許トス老猴ニ至テハ更ニ大ナルモノアリ常ニ山林ニ群集棲息シテ果實ヲ食ヒ又畦蔬野菜等ヲ掠奪ス其性狡猾ニシテ馴養シ易カラズト雖氏之ヲ家ニ飼ヒテ嬉戲ノ技藝ヲ教ユルトキハ能ク種々ノ跳舞ヲナスニ至ル者ナリ

猩々セウケ



猩々ハ亞細亞ノ南方ニ産ス其容貌ハ他ノ諸動物ニ比スレバ最モ人ニ近シトス身長通常三尺餘ナレバ大ナルハ五六尺ニ及ブモノアリ臂ハ

長クシテ脛ニ達シ毛色赤褐ニシテ且長シ常ニ林中ニ棲ミテ果物ヲ食ヒ或ハ海邊ニ出テ魚蝦ヲ食フ其直立歩行スルヲ稀ニシテ多ハ蹠者ノ如シ蓋シ猩々ハ能ク人語ヲ解シ又善ク酒ヲ嗜ム等ノ古諺アレバ決シテ此獸ノ天性ニ非ラズ

猿猴



猿猴即長猿ハ東印度及亞細亞諸島ニ産シテ其種類數多アリ大概身長三四尺臂甚長クシテ殆ト地上ニ達スベシ粗糙ナル毛ハ全身ニ密生シ區

面栗色ニシテ周圍ニ灰色ノ長毛ヲ生シ脊ハ黒色ナリ其性柔順ニシテ常ニ能ク立歩セリ果實樹葉樹皮等ヲ食餌トス
効用 獼猴類ノ毛皮ハ胴着ト為シテ寒ヲ防キ其精毛ハ筆ヲ製スベシ

④第三目 翅手類 即蝙蝠類

蝙蝠ハ奇異ノ夜獸ニシテ世界中産セザル所ナク種類モ亦甚多シ體ニ皮膜アリテ前肢ヨリ後肢ニ連リ膜ヲ開張スレバ翅ト為リテ飛翔ス可シ小者ハ鼯鼠ハリスノ如ク大者ハ猫兒ノ如シ尋常ハ

暗黒色ナレバ或ハ茶褐色ニシテ大ナルモノアリ白晝ハ岩石大樹ノ洞窟又ハ屋壁ノ間隙ニ潛伏シ晚間ニ至レバ群飛シテ蚊蚋及果實ヲ食フ
大蝙蝠ハ小笠原島ニ産シテ巖洞中ニ棲息セリ身長八寸許左右ノ両手ヲ開ク時ハ三尺許ニ至ル黒褐色ニシテ頭圓ク喙尖リテ眼大ナリ齒ハ甚鋭シト雖氏唯植物ノミヲ食フ之ヲ圈養スル時ハ能ク人ニ馴レ好デ蕃諸ヲ食フ

大蝙蝠



蓋シ琉球産ノ八重山蝙蝠モ亦此属ナリ

⑤ 第四目 殺生類

他ノ動物ヲ殺シテ之ヲ餌食スル諸獸ヲ殺生類ト總稱ス此類ヲ分チテ三族トス一ヲ食蟲類ト名ケ一ヲ食肉類ト稱シ一ヲ鱗脚類ト唱フ

○第一族即食蟲類ハ地中ニ棲息シテ小蟲、蚯蚓等ヲ餌食トス鼯鼠、鼯鼯ノ類是ナリ

鼯鼠ハ常ニ土中ニ棲ミ全體ノ長サ五寸許其毛暗褐色ニテ細軟緻密ナリ前脚ノ掌ハ左右ニ開キ肥大ニシテ力強ク能ク土ヲ撥シ縱横十字ニ

鼯鼠

鼯鼠



路ヲ通シ蚯蚓等ノ小蟲ヲ索メ食ヒ是ガ為メニ地面ヲ墳起シテ田圃ヲ荒シ庭園ニ穴ヲ穿テ大ニ農民、種樹家ノ害ヲ為ス

効用 鼯鼠ノ毛皮ハ鐵器ヲ拭フニ用井又膀胱ニ作ルベシ

鼯鼠ハ山林、菜圃ノ中ニ棲ミテ其性質ハ鼯鼠ニ類似シ長鼻管狀ニシテ屈伸スベシ常ニ地中ヲ潛行シテ蚯蚓等ヲ餌食トス又九州ニテ麝香鼠ト稱スルモノハ鼯鼠ノ一種ニシテ香氣アレバ

是レ真ノ香鼠ニ非ラズ乃チ麝ジャカウ鼯カウ鼯カウナリ

○第二族食肉類ハ他ノ獸類、鳥、魚ヲ捕殺シテ其肉ヲ食フモノ、總稱ニシテ性質兇猛恐ルベキモノ多シ熊、獾、獅、猫、狐、虎、豹等ノ類是ナリ

熊ハ我國第一ノ猛獸ニシテ木曾山中其外諸國ノ深山ニ棲ミ身長三尺許、性勇猛強カニシテ四

熊



肢肥大ナリ能ク樹木ニ攀登ス體毛ト爪ハ共ニ黑色ニシテ喉下ニ新月形ノ白紋アリ俗ニ之ヲ月輪ト稱ス常ニ菓實ヲ餌食

シ冬間ハ樹窟或ハ岩穴ニ蟄伏シテ出デズ

効用 熊ノ毛皮ハ茵褥トナシ又武具ヲ裝飾ス

ルノ用ニ供ス其肉ハ美味ニシテ脂ハ胼胝ハタタノ藥

料トナル熊膽ハ大ニ健胃ノ効アルヲ是レ世人

ノ能ク知ル所ナリ

熊ハ尋常熊ニ比スレバ皆巨大ニシテ其最大ナ

ルモノハ八九尺ニ至ル體毛暗褐色ニシテ且長

ク肥大強壯ナリ此熊ハ北海道ニ棲息シ性猛烈

ニシテ能ク牛馬ヲ捕攫シ之ヲ負擔シ去リテ餌

食トス又小銃ヲ以テ射撃スルトモ容易ニ死セ

正博物志卷之十一 熊 熊

スシテ却テ其人ヲ追逐スル者アリト云フ
効用 毛皮ノ用法ハ前ノ熊ニ同シ

白熊 熊即



全身帶黃白ニシテ專ラ冰海ニ
棲ミ海魚海獸及ビ鯨ノ死體ヲ
餌食スレド陸ニ在ルトキハ獸
類或ハ植物ノ子實ヲ食フ又人
ヲ害シ牛馬ヲ捕ヘテ之ヲ食フ

ト云フ

獾ハ我國諸州ニ産ス身長二尺許頭細ク喙尖リ

體毛暗褐色ニシテ額ノ中央ヨリ鼻上ニ至ル迄
ハ灰色ナリ短脚強壯ニシテ爪長ク地中ニ穴ヲ
穿ツヲ極テ容易ク能ク樹木ニ攀登ス常ニ穴中
ニ棲ミテ果實樹根蚯蚓等ヲ餌食ス其肉ハ野猪
ニ以テ美味ナリト云フ

鼬 鼬



鼬鼠ハ人家祠堂ノ床下ニ棲息シ身長七寸許毛
ハ褐色ニシテ尾甚太ク細軀短脚ニ
シテ能ク小穴中ニ潛入シ得ベシ其
性敏捷人ヲ畏怖ス多クハ夜遊シテ
餌食ヲ搜索シ能ク鵝及鼠ヲ捕ヘテ

政事考卷之十一 十三 同 熊

其血ヲ吸飲ス

世俗ニ雷獸ト呼ブモノハ鼬鼯ニ似テ更ニ大ナ
リ博物家ハ之ヲ貂鼠ト稱ス常ニ深山幽谷ノ中
ニ棲息シ毛ハ褐色ニシテ胸腹ト耳内トハ帶黄
赤色ナリ頭ハ犬ニ似テ喙尖リ尾太クシテ茸毛
アリ此獸ハ雷鳴ノ時ニ方テ村里ニ驚奔スル
アリ世俗ハ之ヲ誤認シテ電雷ト共ニ天ヨリ墜
チ來ルモノトセリ

黃鼬ハ諸國山地ノ堂舍又ハ古屋ニ棲ミ毛ハ黄
色ニシテ長ク形狀鼬鼯ニ似テ長大ナリ世俗ニ

黃鼬ハ鼬鼯ノ老大ナルモノト稱スレドモ是亦
誤認ニシテ鼬鼯トハ全ク別種ナリ

効用 黃鼬ノ毛皮ハ帽子風領等ニ作ルベク毛
ハ筆ヲ製スベシ

水獺ハ形狀稍鼬鼯ノ如クニシテ我國諸州ノ水
邊ニ棲ミ魚類ヲ捕ヘテ之ヲ餌食ス

身長二三尺許頭圓クシテ太キ鬚ヲ
具シ脚ハ短クシテ趾間ニ蹠アリ自
在ニ水中ヲ游泳ス毛ハ柔軟美麗ナ
ル濃褐色ニシテ海獺ニ似タリ



効用 毛皮ハ帽子、風領、衣服ノ裏等ニ使用ス

海獺ハ水獺ノ種類ニシテ北海道千島ノ海邊ニ

産ス其大ナルモノハ身長五六尺ニ及ハ體毛ハ

海獺



細密柔軟ニシテ光澤アル暗黒色ナ

リ常ニ鳥賊、蝦類等ヲ餌食ス

効用 毛皮ハ帽子及衣服ノ裏等ニ

用ナテ最上品ナリ故ニ其價モ亦甚

貴シ

犬狗屬 此屬ハ犬類、狐類、狼類等ヲ包有ス

犬ハ家畜ノ一ニシテ其種類多ク性質伶俐ニシ

テ情意深厚能ク恩義ヲ知覺セリ夜ハ家ヲ守リ

テ盜竊ヲ防ギ驅走スルヲ迅速ニシテ鼻感尤靈

敏ナリ故ニ田獵ノ時ハ大ニ人ノ幫助ヲナス

凡ソ犬ハ世界中往ク處トシテ世人ニ隨從シテ

棲息セザルハナシ近年我國ニ各種ノ洋犬舶齎

シ人々爭フテ之ヲ畜養シ殆ト日本固有ノ犬種

ヲ壓スルニ至ル

効用 犬皮ハ猫皮ニ代用シテ三絃ノ槽ニ張り

其大ナルモノハ製シテ韋革トス

狼ハ深山ニ棲ミテ村里ニ出ルヲ稀ナリ形ハ大

狼



犬ノ如ク性甚兇暴ニシテ常ニ小獸ヲ捕攫シ之ヲ餌食ス其飢餓ニ迫ルカ若クハ狂病ニ罹ルニアラザレバ人ヲ咬傷スルヲ少シ然レバ冬春ノ際積雪地ヲ覆ヒテ食物ニ乏キ時ハ狼勢猛暴ニシテ群ヲ成シ村里ニ出テ人馬ヲ害スルヲアリ

狐ハ内國諸州ニ産シテ人家近キ山林中ニ穴居シ又ハ深山ニ棲息スレバ四國對馬肥前ノ五島ナドニハ産セズト云フ體軀ハ犬ヨリ小ニシテ

狐



其性最狡猾疑心甚深シ夜間能ク人家ニ忍ビ入り鶏或ハ卵ヲ竊去リテ之ヲ食ヒ或ハ野兔ノ巢窟ヲ侵シテ之ヲ攫殺餌食ス

効用 狐ノ毛皮ハ帽子風領又衣服外套ノ裏ニ使用ス

狸ハ能ク家宅ノ床下ニ棲息シ大サ犬ノ如クナレバ尾太ク四肢甚短シ體毛暗灰色ニシテ黒褐ノ長毛アリ其性狐ニ酷肖シ夜間出デ、餌食ヲ求ムレバ狐ニ比スレバ人ニ害ヲ為スヲ少ナキ

者ナリ

効用 長毛ハ枝太テ筆毫トスベシ又毛皮ハ衣服トシ特ニ鞣ノ内部ニ用テ効アリ

靈猫ハ身長二尺乃至三尺許ニシテ毛ハ長ク色ハ帶褐灰色或ハ斑點ノモノアリ印度及多島海

靈猫



ノ諸島及亞非利加熱帶地方ニ産シテ其種三アリ此三種ハ皆腹肚ニ馨香馥郁タル脂肪ヲ分泌スル小囊ヲ具ヘタリ之ヲ靈猫香ト云フ又此香物ヲ得ンガ為ニ數頭ノ靈猫ヲ飼養

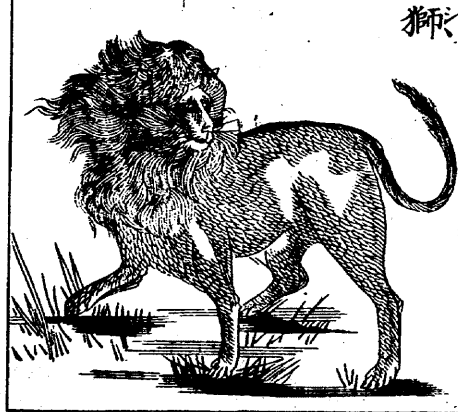
スル者アレデ此獸ハ其性兇暴猛烈ニシテ決シテ人ニ馴致スベキ者ニアラズ

猫属 此属中ニハ猫、獅、虎、豹等ヲ包有ス

猫ハ其毛色種々ナレデ大概ハ黒色白色或ハ帶黄赤色、黒白等ノ線條又ハ斑紋アルモノナリ猫ハ人家ニ畜養ス人ノ能ク知ル所ナリ猫ノ最著明ナル性質ノ一ハ其常ニ住スル家屋ノ局所ヲ記憶セント欲スル顧慮ナリ又猫ハ其飼主或ハ懇篤ニ己ヲ保護スル人ニ馴レ親ムト雖、氏常ニ竊盗ノ性ヲ有スル者ナリ

効用 猫ノ革ハ三絃ノ槽ヲ張ルニ用キ毛ハ蔣
繪所用ノ筆ヲ製ス可シ
又尋常猫ノ外山猫或ハ野猫ト稱シテ山野ニ棲
息スルモノアレバ皆家畜猫ノ野生トナリシモ
ノト云フ

獅ハ身長五尺乃至八尺許ノ猛獸ニシテ體毛帶
赤黃色尾端ニ流蘇狀ノモノヲ具シ其牡ノ頸ニ
ハ鬐長ノ鬣アリ此獸ハ亞細亞ノ南方及ビ亞非
利加ニ産スレバ其相異ナル所ハ唯鬣色ノミニ
シテ亞細亞産ハ黃色亞非利加産ハ黑色ナリ



獅ノ前脚ハ太ダ逞クシテ力
最強ク其一搏ヲ以テ容易ニ
馬ノ頭ヲ碎クベシ故ニ之ト
抗敵スル獸類ハ唯象、犀、虎、
ルノミ咆吼ノ聲ハ尤驚愕ス
ベクシテ特ニ其他獸ヲ侵襲
スルニ方テ發聲スルトキハ百獸震懾シ何如ナ
ル武夫モ之ガ為メニ戰慄恐怖セザル者ナシト
云フ

虎ハ亞細亞ノ南部及ビ其諸島ニ産シテ害ヲ為

虎



スヲ甚大ナリ其形ハ獅ニ
比スレバ體軀脩長ニシテ
高サ三尺許長サ六尺許最
大ナル者ハ一丈餘ニ至ル
其猛威ハ獅ニ劣ルト雖モ
能ク人ヲ攫ヘテ負擔シ去リ其肉ヲ食フアリ
體毛ハ黃色ニシテ黑色ノ斑條ヲ具シ文彩頗ル
美麗ナリ

効用 毛皮ハ武具ノ飾裝并ニ坐褥ノ用ニ供ス
ベシ

豹ハ亞細亞ノ東南ニ産シ特ニ亞非利加ノ内地ニ
多シ身長三尺乃至四尺許毛ハ黃色ニシテ櫻花
様ノ斑點アリ尾ハ頗ル長クシテ黑白ノ環ヲ嵌
メタルモノ、如シ眼球ハ常ニ動テ静止スルヲ
ナシ性質甚兇暴殘忍ニシテ羚羊、獼猴其他ノ小
獸ヲ捕ヘテ之ヲ餌食ス其行動ノ輕快迅速ナル
ニ至テハ能ク之ニ及ブ者ナシ又豹ハ其形狀容
貌能ク虎ニ似タルヲ以テ虎ノ牝ナリト云フ俗
説アレモ虎ト豹トハ全ク別種ナリ
効用 毛皮ノ用所ハ大抵虎ト相同シ

○第三族鰐脚類ハ各所ノ海中ニ棲息スレド多クハ北極地方ノ海中ニ居テ其種類モ亦少カラズ水ヲ游泳スル時ハ唯後足ノミヲ使用ス又陸上ヲ運動スルハ遅緩ニシテ其狀恰モ匍匐蟲ノ如シ即海豹、鰐脚獸、海馬、海驢ノ類是ナリ海豹ハ多ク氷海ニ群集棲息スルモノナレド我北海道ノ海邊ニモ亦産出ス頭形ハ稍犬ト獺トニ類似シ身長五尺許ニシテ脚甚タ短シ故ニ陸上ニ在テハ唯匍匐スルノミナレド水中ニ游泳スルハ極テ自在ナリ

効用 毛皮ハ帽、褥ト為シ又器物ニ造ルベシ
鰐脚獸ハ北海道ニ産ス身長二尺許體毛黑褐色ナリ眼大ニシテ暗藍色、齒細小ニシテ鋭シ鳴聲恰モ馬ノ嘶クガ如シ



鰐脚獸
ワットセイ

効用 毛皮ハ柔軟ナルガ故ニ衣服及ビ帽子ヲ製スベク其他

ノ用ニ供シテ甚上品ナリ

海馬ハ其形狀海豹ニ類似シ身長一丈二尺許重量ハ最大ナル牛ノ二倍ニシテ上脰ニ長大ナル

二條ノ牙ヲ具シ體軀ハ短毛ヲ蒙被セリ海馬ハ
北海ノ氷上ニ數百頭群集シテ高聲ニ吼ユル
アリ其牝ハ仔ヲ慈愛スルヲ甚深シ
効用 脂ヨリ油ヲ製ス可シ又牙ハ象牙ニ代用
シテ彫刻材料ニ供ス俗ニ之ヲ水象牙ト云フ

第四編

○第五目 齧齒類

此類ハ鑿ノ如キ門齒上下二枚アリテ器物、樹木
等ヲ齧ムモノトス鼠、鼯鼠、栗鼠、兎ノ類是ナリ
鼠ハ隨處ノ人家ニ棲息シ梁上又ハ壁間ノ罅隙

等ニ其巢ヲ造構シ白晝ハ潛居シテ寂然聲ナク
夜間ニ至レバ人ノ寢息ヲ伺ヒ戸ヲ穿テ壁ニ穴
シテ跳リ出テ器物ヲ齧ミ食物ヲ竊ミ害ヲ為ス
一甚シ尋常鼠ハ淡黑色ナレバ往々白色ノモノ
アリ



鼠及鼯鼠

鼯鼠ハ尋常鼠ヨリ小ナレバ其害
ヲ為スニ至リテハ又相同シ體毛
白色或ハ種々ノ斑點ヲ帯ビテ美
麗ノモノアリ是レ鼯鼠ノ變種ニ
シテ即南京鼠ト稱スル者ナリ

此他「タケ子ズ」ト稱スル一種アリ其大サ尋
常鼠ト鼯鼠トノ中間ニ在リテ頭並ニ脊部ハ淡
褐色ニ黒灰色ノ毛ヲ雜ヘ腹部ハ灰白ナリ頭圓
ク前脚ハ短シ常ニ圃場ノ土中ニ棲息シテ蔬畦
ノ害ヲ為ス

栗鼠

又ヤ子ス
ミト称ス

ハ山林ノ枝上ニ棲息シテ常ニ果

實ヲ食フ秋間ニ至レバ種々ノ

果實ヲ收拾シテ之ヲ古木ノ空

窩中ニ貯蓄シ以テ冬月ノ食料

ニ充タス其形狀稍鼠ニ類似シ



栗鼠

テ頗ル大ナリ尾尤肥大ニシテ粗糙ナル長毛アリ
常ニ之ヲ負載シテ能ク前足ヲ手ノ如ク使用
ス其樹上ヲ跳走スルヲ甚輕捷ナリ之ヲ捕ヘテ
籠中ニ置キ小踏車ヲ踏マシムレバ巧ニ之ヲ輾
轉ス

兎ハ其性怯懦ナリ耳ハ脩長ニシテ善ク遠隔ノ

聲ヲ聞クニ適當シ目ハ凸起セル

ヲ以テ前後左右ヲ看得スベシ前

脚ハ後脚ヨリ短キガ故ニ丘山ヲ

登ルヲ甚易ケレドモ之ヲ下ルハ



野兎

正博物志 卷之十一 四足類
極メテ勞ス其山野ニ棲ムモノヲ野兎ト稱ス全
身暗褐色ナリ家ニ畜フモノヲ家兎一名「ナンキ
ンウサギ」ト云フ毛色ハ純白、純黒或ハ黑白斑、褐
斑等各種アリ共ニ草木ノ葉、果實、穀物等ヲ食餌
トス

越後ニテハ尋常ノ野兎、冬間積雪中ハ白色ニ變
ジ夏季ニ至リテ漸ク本色ニ復ス又山城ニハ一
種淡黒色ノ者アリト云フ此獸ノ肉ハ美味ナル
ヲ以テ大ニ世人ニ賞セラレ且野獸ノ為メニモ
貪食セラレ、多シ

効用 家兎ノ毛皮ハ帽子、風領等ニ作り毛ハ織
物、筆ヲ製スベシ

③第六目 無齒類

無齒類ハ異形ノ獸ニシテ植物或ハ小蟲ヲ食フ
皆温暖地方ニ生産シテ門齒及牙齒ナク脚趾ニ
ハ長キ狹扁ノ爪アリテ攀登、穿掘ノ用ニ供シ又
猛獸ヲ防クノ具トセリ即食蟻獸、龍鯉等ノ類是
ナリ

食蟻獸ハ南亞米利加ニ産ス大ナルモノハ身長
四尺許尾ハ二尺五寸許其舌二尺許アリテ口内

食蟻獸



ニ重疊ス鼻ハ甚長ク毛ハ黒色及
白色ナリ常ニ深林ニ棲息シ粘液
ヲ抹シタル長舌ヲ出シ蟻垤ヲ搜
索シテ蟻ヲ食餌トス又能ク樹木

ニ攀登スレドモ行歩ハ甚遲緩ナリ

龍鯉ハ亞非利加及東印度ニ産ス身長凡一尺二
寸乃至一尺五寸許ニシテ齒ヲ具セズ全身ニ鱗
甲アリ此甲ヲ穿山甲ト稱ス其狀恰モ屋瓦ノ如
ク鱗尖ハ甚堅ク之ヲ撲撃スルトキハ火ヲ發ス
其他獸ニ襲ハルノニ及ンデハ身ヲ縮メテ毬形

トナリ鱗ヲ聳立シテ柔軟ナル腹部ヲ遮蔽ス故
ニ猛獸ト雖モ遂ニ之ヲ損傷スルヲ能ハバト云
フ

③ 第七目 雙蹄類

雙蹄類ハ一名翻芻類ト稱シ一回吞食セシ芻草
ヲ再出シテ嚙ミ食フベキ獸類ナリ角狀ノ蹄ア
リテ二箇ニ分ル下脣ニノミ六個ノ門齒アリ上
脣罕ニ牙様ノ門齒二枚アリ即駱駝、鹿、羊、牛ノ類
是ナリ

駱駝ハ熱國地方ノ有名ナル家畜ニシテ其種ニ

駱駝



アリ一ハ身長一丈許體毛褐色ニシテ脊上ニ隆起セル肉鞍二個アリ之ヲ雙峯駝ト稱ス波斯及土耳其ニ産ス一ハ身長八尺許毛ハ淡褐色ニシテ脊上ニ肉鞍一個アルノミ之ヲ獨峯駝ト名ク亞喇伯ノ北部及亞非利加印度等ニ産ス

駱駝ハ性順良ニシテ善ク重量ノ什物ヲ負載シ且炎熱ト飢渴トニ堪ユル者ナリ此獸ハ腹中ニ

大ナル水臍アリ水ヲ飲ミテ其内ニ充滿セシムレバ十日乃至十二日間ノ旅行ノ用ニ足ルベシ又足蹠ハ椅褥様ニシテ砂上ヲ歩行スルニ適當ス故ニ亞刺伯亞非利加等ノ如キ數百里間ノ沙漠中ニハ常ニ駱駝ヲ使役シテ賣買ノ貨物ヲ運送シ之ヲ稱シテ沙漠ノ舟ト唱フ其肉ト乳トハ土人ノ常食ニ充テ其毛ハ織テ以テ衣服ヲ製ス麝獸ハ中亞細亞諸國ノ山中ニ産シ身長三尺許ニシテ其牡ハ上臍ニ長キ二個ノ牙アリ下方ニ向テ口外ニ挺出セリ又下腹ノ邊ニ鳩卵大ノ一

麝ジヤウシヤ獸



膜囊アリテ其内ニ有名ナル麝香ヲ有セリ我北海道ニモ此獸ヲ産スレバ麝香ハ支那ボウタン勅烏丹ノ産ヲ以テ最上品トス

鹿ハ常ニ諸國ノ山林ニ棲息シ往々村里ニ出テ田圃ヲ害スルヲアリ其牡ハ角アリテ上齒ナク毛ハ赭赤色ニシテ小白斑アリ牝ハ體格稍小ニシテ角ナク上齒アリ毛ハ黄赤色ニシテ白斑ナク白毛ヲ混生セリ但シ鹿角ハ每歲夏季ニ至レバ脱落シテ更ニ新角ヲ生ズ其老

大ナルモノハ叉枝多シトス

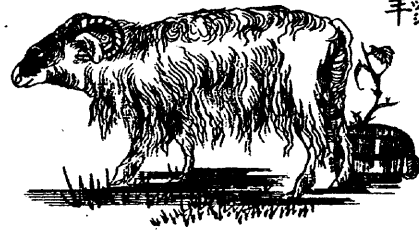
効用 肉ハ食用ニ供シテ美味ナリ毛皮ハ褥或ハ器箱ヲ作ルベシ其革ハ諸種ノ細工ニ使用シ又製シテ日本名産ノ漆草トス毛ハ刷子及筆毫ノ料ニ充テ角ハ彫刺キョウサ鐵作テツサノ材ニ供シ或ハ小器具ヲ作ルベシ

カモシカ又ニクト称スハ身長三尺餘體毛帶褐灰色ニシテ且長ク頭上ニ長サ五寸許ノ二角アリテ少シク鉤形ヲ爲ス常ニ高山ニ棲息シ行走極テ迅速ナリ

効用 毛皮ハ上品ノ褥料トセリ又此角ヲ稱シテ和産ノ羚羊角ト云フ

羊ハ最有用ノ獸ニシテ種類多ク野生アリ或ハ家ニ畜フモノアリ尋常ノ種ハ身長三尺許牡ハ角ヲ有シ牝ハ之ヲ有セズ毛ハ白色ニシテ性順良ナリ此獸ハ隨處ニ轉移シ得ベシト雖凡地方ノ異ナルニ從テ形狀及ビ毛色ヲ變ジ毛質モ亦精粗ノ殊別アルニ至ル者ナリ

効用 羊毛ハ毎年剪採シテ以テ羅

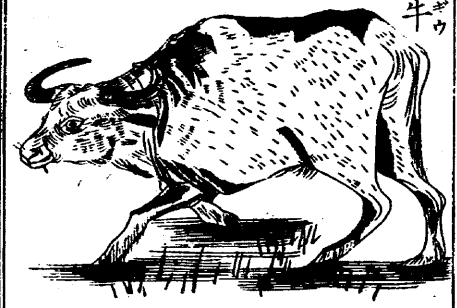


羊

紗其他毛布ヲ製スルニ必要品ナリ其卷縮シテ細キモノヲ最上品トス羊肉モ亦極テ美味ナリ牛ハ歐米諸國ニ産シ其種類少カラズト雖モ世人ニ最モ有用ナルハ家畜牛ナリ我國ニテハ諸州ニ産ス中ニ就テ三丹及ビ南部産ヲ最上トス又牛ハ人ニ必要ノ獸ニシテ田ヲ耕シ車ヲ牽キ重物ヲ負ハシムベシ且其肉ト乳汁トハ滋養ノ功多キヲ以テ常ニ世人ノ服用スル所トス其他皮角蹄脂油筋骨等ニ至ルマデ一モ無用ニ属ル所アラザルナリ

効用 牛角ハ彫刺及ビ器物ニ使用シ黄色ノモノハ瑇瑁ニ代用ス韋革ハ器物ニ作り生革ハ鼓皮ニ用斗蹄モ亦瑇瑁ニ代ヘテ小器具ヲ造ルベシ膳ハ藥用ニ供シテ健胃ノ功アリ脂ハ蠟燭石

水牛



鹼ノ製造ニ充テ筋ハ強靱ナルヲ以テ線絛ニ用斗又綿弓ノ弦トス
水牛ハ牛ニ類似スレド體軀ハ牛ヨリ差肥短ナリ其狀貌野鄙ニシテ常ニ頭ヲ地ニ垂ル角ハ

$$27\frac{1}{2} \times 2 = 55 \times \frac{8}{1} = 440$$

區形長大ニシテ左右ニ分レタリ亞非利加及印度ニハ野生ノ水牛アリ又希臘及ビ以太利ニテハ尋常牛ニ代ヘテ之ヲ畜養セリ蓋シ水牛ハ尋常牛ニ比スレバ頗ル強壯ニシテ其乳汁ヲ生ズルヲ甚多シト雖モ乳質ハ善良ノモノニ非ズ効用 角ハ黑色堅實ナルニ因テ彫刺其他諸種ノ器物ヲ製スベシ

④ 第八目 單蹄類

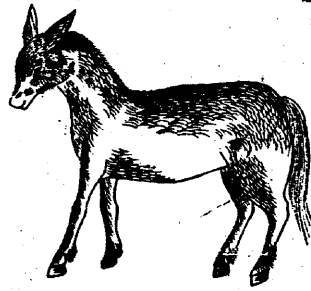
此類ハ足ニ單一ノ蹄ヲ具フルモノニシテ只植

能ク乗駕ノ用ニ適應セリ即チ馬、驢等はナリ
馬ハ全世界中ニ蕃殖シ其種類多シト雖モ亞刺
伯産ヲ最良トス内國ニテハ南部、仙臺ノ産ヲ上
等トス凡ソ馬ハ諸獸中ニ於テ尤モ人ニ須用ナ
ル者ニシテ能ク人ヲ載セ或ハ重物ヲ負ヒ或ハ
車ヲ牽キ或ハ田ヲ耕ス等其用甚多シ
馬ハ大約二十五歳乃至三十歳ノ年齢ヲ保ツ者
ナレモ其能ク勞ニ堪ユルハ三歳ヨリ十二三歳
マデニ過キザルベシ

効用 馬皮ハ鼓皮ニ用テ最上トス其韋革ノ

用ハ略、牛革ニ均シ馬毛ハ筆毫ニ用テ又氈ヲ作
ルベシ馬鬣ハ組物、織物、編物ヲ製スルニ用テ白
色ナルハ釣緇ニ宜シ蹄ハ玳瑁ニ代用ス俗ニ之
ヲ擬鬣甲ト唱フ

驢



者ヲ駱駝ト名ク

驢ハ其形馬ヨリ小ナレモ耳朶
脩長ナリ故ニ之ヲ兔馬ト呼ブ
其用大概馬ニ同シ又牝馬ト牡
驢トノ間ニ生ズル者ヲ騾馬ト
稱シ牝驢ト牡馬ノ間ニ生スル

⑤第九目 多蹄類 一名厚皮類

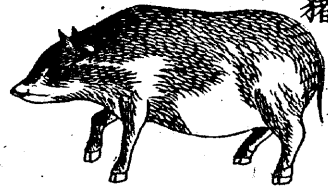
此類多クハ形體肥大ニシテ其皮甚厚シ故ニ厚皮ノ名アリ又足ニ三數ヨリ五數ニ至ル蹄狀ノ趾アリ故ニ之ヲ多蹄類ト稱ス野猪、豚、象等是ナリ

野猪ハ諸國ノ深山ニ棲ミ常ニ草根、果實ヲ食フ春夏ノ際夜間村里ニ出テ、田畝ヲ荒シ作物ヲ害スルヲアリ性猛烈ニシテ能ク獵者ニ敵ス其肉ハ頗ル美味ナリ又牡ハ上向セル鈎狀ノ二牙ヲ上腭ニ具フレドモ其牝ハ之ヲ有セス奮怒ス

ル片ハ脊毛聳立ス之ヲ怒毛ト云フ

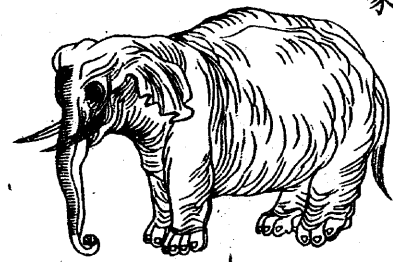
効用 猪牙ハ紙ヲ摺リテ光滑ナラシメ又雉子笛ヲ製スベシ怒毛ハ革ヲ縫ヒ或ハ傘骨ヲ心軸ニ繫クニ用キ又ハ刷子ノ材料ニ充ツ又猪膽ハ藥用ニ供シテ其効牛膽ニ亞クト云フ

家猪



家猪ハ形狀野猪ニ類似シ牙アレバ野猪ノ如ク長大ナラズ毛ハ白色、黒色或ハ雜駁ノモノアリ豚ハ家畜中最蕃息シ易キモノニシテ一分娩ニハ子乃至十二子ヲ産出ス其肉ハ食

料ニ供スベシ豚ハ土ノ外如何ナル汚穢物ニテ
 モ之ヲ餌食トセリ琉球ニテハ人糞ヲ以テ之ヲ
 飼養スト云フ
 効用 豚脂ハ多ク工業及機械運轉ノ諸用ニ供
 シ又膀胱ハ壘口ヲ密封スルニ使用ス
 象ハ其大ナルヲ四足獸中ノ巨擘ニシテ二種ア
 リ一ハ亞細亞ノ印度ニ産シ一ハ亞非利加ニ産
 ス身長大凡一丈許尋常ノ種ハ其毛灰色ナレド
 モ稀ニハ白色ノモノアリト云フ象カハ甚強
 大ニシテ二千斤ノ重量ヲ負擔シ得ベシ然ルニ



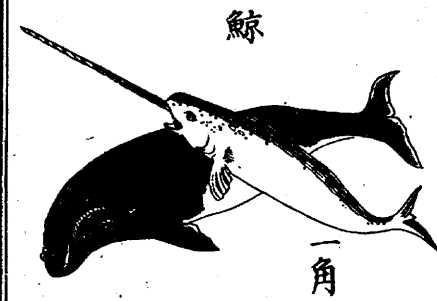
其性極テ柔順ニシテ且伶俐ナリ
 人若シ之ヲ眷愛スルトキハ能ク
 馴レテ其命ニ服従スレド之ヲ虐
 使スレバ必ズ之ヲ記臆シテ他日
 ノ好機會ヲ待チ能ク其舊怨ヲ報
 スト云フ

象鼻ハ頗ル長クシテ且強カアリ善ク手ノ諸用
 ヲ達シテ以テ針ノ如キ細物ヲ撮取シ又人ノ如
 キ大物ヲ提起ス其上脰ノ兩側ニハ巨大ナル牙
 アリ

効用 象牙ハ武具ノ飾装其他所用多シ象牙ハ
各般ノ細工物ト為スニ最上品ナリ

第六十目 游水類

此類ハ一名鯨類ト稱ス即鯨海豚ノ如キ者是ナ



リ皆海中ニ棲息シ形狀魚ニ酷
肖セルヲ以テ世人誤テ魚類ト
做セバ其實ハ魚ニ非ラズ凡ソ
魚ハ其血冷カニシテ子ハ皆卵
生ナレバ鯨類ハ其血温カニシ
テ子ハ胎生シ乳ヲ哺シテ之ヲ

養フ是レ其魚類ナラザル所以ナリ

鯨ハ其種類甚多ク大小各異ナリテ四丈ヨリ八
丈ニ至ル其皮ニ毛及鱗ナク皮肉ノ間ニ厚キ脂
腹アリ前脚ハ鱗ニシテ後足ナク尾ニ強力アリ
口ハ巨大ニシテ齒ナク腮ノ下ニ鬚アリ耳ニ輪
廓ナク眼ハ頗小サク胃管ハ狭小ナリ故ニ鯨魚
ノ如キ小鱗族及海藻ノ外ハ之ヲ食フヲナシ其
種類ヲ分ケテ二トス一ヲ食肉トシ一ヲ食草ト
ス我國ニ産スルモノハ皆食肉ニ屬ス

鯨類ニハ鯨コクヂラ、鰭鯨、鰭魚等種々ノ名稱アリ

リテ其形狀ニ差異アリ「コクデラ」ハ鯨ニ類似シ
テ只小ナルノミ口内ニ白色鬚アリ之ヲ白鬚
ト云フ肥前ノ平戸、五島邊ニ多シ
鰭鯨ハ身長三丈許胸腹ニ縦皺多ク脊鰭アルヲ
以テ尋常ノ鯨ト區別ス口内ノ鬚短ク表皮薄ク
膏油少ナシ又壺魚ハ身長三丈乃至七丈全身灰
黒ニシテ少ク赤色ヲ帶ビ口内ニ牛角ノ如キ齒
ヲ具セリ此二種共ニ南海ニテ多ク漁獵ス一角
魚ハ多ク北氷洋ニ産ス大サ海驢ニ等シク上脰
ニ二本ノ直齒アリ一ハ長クシテ角ニ似タリ

効用 鯨肉ハ食用ニ供シ脂ハ燈油トナシ又稻
田ノ蟲ヲ除クニ使用ス筋ハ弓弦及綿弓ノ弦ニ
宜シ鯨鬚ハ組編物其他器具ニ作ル又白鬚ハ白
色美麗ナルガ故ニ工匠之ヲ貴ブト云フ

⑦ 第十一目 袋獸類

此類ハ腹肚外ニ皮袋アリテ其狀恰モ肚兜ノ袋
ノ如ク袋内ニ乳房ヲ藏ス其動作及齒形脚形等
甚殊異ニシテ殺生獸ト嚙齒獸トニ交渉セリ
袋鼠一名更格噓ハ澳大利ニ産シテ身長四
尺許腹肚外ニ袋狀ノ皮アリ子ヲ産ムトキハ此

袋鼯 フクロモリス



皮肉ニ置キテ之ヲ哺乳ス前脚短ク後脚長ク尾ニカアリテ能ク跳躍ヲ為ス若シ危難ニ臨メバ其子ヲ袋中ニ匿藏シ常ニ果實小蟲類ヲ餌食トセリ

⑧ 第十二目 鳥嘴類

此類ハ一名單肛類ト稱ス口啄長クシテ恰モ鴨嘴ノ如ク體ニ毛或ハ刺アリ耳ニ輪廓ナク口内ニ齒ナシ足ニ五趾アリテ蹠ヲ具ス故ニ能ク水中ニ出沒游泳セリ蓋シ鳥ト獸トノ中間ニ在ル

鴨嘴獸 カモノハシ



者ノ如シ鴨嘴獸ハ身長一尺餘體ニ柔軟ノ毛アリ喙扁平ニシテ鼻ハ其上喙ニアリ常ニ水邊ニ棲息シテ蚯蚓小蟲類ヲ食セリ

第五編

① 第二綱 鳥類

有脊動物ノ第二綱ハ鳥類ナリ體內ノ造構ハ人類及獸類ニ似テ血液温暖ナリ然レバ外部ノ造構ハ大ニ二類ニ異ナリ全身ニ羽ヲ覆ヒ翅翼ア

正丹羽所抄 卷之一
リテ高ク空中ニ飛翔ス口ハ齒ヲ具セザレバ嘴
アリテ能ク食物ヲ啄ミ直ニ之ヲ嚥下ス然レバ
胃ノ造構特異ナルニ因リ善ク之ヲ消化ス耳ハ
輪廓ナク足ハ二脚ニシテ疾ク跳走ス其趾ハ四
本アリ三趾ハ前ニ向ヒ一ハ後ニ向ヒテ皆爪ヲ
具フ但シ啄木鳥、鸚鵡等ノ如キハ前後ニ各二趾
ヲ分テリ

又頭上ニ肉冠ヲ戴キ或ハ毛冠ヲ被ルモノアリ
其性質、習慣各同シカラズ鷹、鷲ノ類ハ生物ヲ食
ヒ啄木鳥、鸚鵡ハ能ク木ヲ攀ツレバ地上ヲ行ク

ニ不便ナリ鷄類ハ能ク行走スレバ高飛スル能
ハズ鷓鴣ハ長脚アリテ沼澤ヲ涉リ鴈、鴨ハ蹊ア
リテ善ク水ヲ游泳ス故ニ之ヲ分チテ七目トス
即鷺鳥類、綠木類、唱類、鷄類、走類、涉類、游類是ナリ

○第一目 鷺鳥類

此類ハ一名食肉類ト稱シ常ニ活物ヲ捕攫シテ
之ヲ餌食ス其嘴ハ鈎曲シ爪尖銳ニシテ筋肉ヲ
抓裂スルニ便ナリ翼ハ長大且剛勁ニシテ其飛
翔スルヤ尤高遠ヲ極メ眼力頗銳利ナリ即鷺、鷹、
鳶、角鵂、鵂鴞ノ類是ナリ

鷲ハ羽族中最強勁ニシテ飛翔迅速ナリ其餌食
セント欲スル動物ヲ追逐スルヤ快捷無比爪ヲ
奮テ之ヲ攫殺ス最大ナル鷲ハ能



ク小獸及小兒ヲ攫ミ去ルト云フ
諸國ノ深山或ハ海邊ニ棲息シ又
北海道ニ拙ムモノ最多シト云フ
効用 羽ハ羽帚ニ製作ス又箭羽
ニ供スルハ尾羽ヲ以テ第一トス

鷹ハ鷲ヨリ小ニシテ種類多シ其雛ヲ捕ヘテ飼
養シ遊獵ノ用ニ供スルモノハ即蒼鷹隼鷃等ナ

リ共ニ能ク諸鳥ヲ捕攫ス性群居ヲ好マスシテ
唯雌雄相共ニ棲息ス鷹ハ東國ニ多ク西國ニ少
シ蒼鷹ハ松前南部等ニ産シ隼ハ常陸ノ鹿島岩
城鷃ハ下野ノ日光宇都宮武藏ノ秩父信濃ノ松
本等ニ産スル者多シ

鷲ハ諸所ノ市街ニ飛翔シテ魚鳥ノ腸ヲ食フ且



角鷃

街上ニ臭穢物アレバ能ク攫
ミ去リテ路上ヲ清掃ナラシ
メ田畝ヲ害シ菓實ヲ傷フ等
ノ患ヲ為サズ

正博物志 卷之一 同 鳥類
角鴟、鵂鶖ハ白晝ハ茂林及朽穴中ニ潛匿シ夜間ニ至レバ棲所ヲ出テ、宿鳥ヲ襲ヒ之ヲ捕ヘテ餌食トス

③ 第二目 緣木類

此類ハ樹木ノ朽窩或ハ林間ニ棲息シ小蟲類及果實ヲ啄ム脚力極テ強ク趾ハ前後各ニアリ勁爪ヲ具ヘテ尤樹木ヲ攀登スルニ便利ナリ啄木鳥、杜鵑、鸚哥、鸚鵡ノ類是ナリ
啄木鳥ハ山林ニ棲ミ嘴長ク且堅牢ナリ夏々トシテ樹皮ヲ叩キ小蟲ヲ驅リ出シテ之ヲ啄ム

杜鵑ハ諸國ノ山林ニ棲息シ性怯懦ニシテ獨居シ小蟲類ヲ食トス其卵ヲ産スルヤ自ラ之ヲ孵サズシテ他鳥ノ巢中ニ放置ス梅雨ノ候ニ及ベバ市邑ニ飛翔シテ啼叫ス詞客ハ其聲ヲ喜ンデ之ヲ詩歌ニ吟詠セリ



鸚哥及鸚鵡ハ元來熱帶地方ニ産スニ鳥ノ嘴ハ鈎曲シテ攀登ノ助ヲ為シ羽毛甚美麗ナリ善ク之ヲ馴養スル時ハ巧ニ人語ヲ擬シテ顫喚ス故ニ人ノ為ニ

愛玩セラル

④ 第三目 唱類

此類ハ大概音調清朗ノ鳴聲ヲ發スル鳥族ニシ
テ能ク群飛ヲ為シ又巧ニ巢ヲ營ミ或ハ氣候ニ
從ヒ居住ヲ轉移スルモノアリ多クハ蟲類果實
穀物等ヲ食フ即雀、燕、時辰雀、伯勞、交喙、鵲、鴿、鶯、山
雀、鳥ノ類ナリ
雀ハ人家ノ屋檐或ハ竹林中ニ巢ヲ造リ群噪喧
鳴シテ常ニ庭園ニ去來シ其食餌ヲ求ム
燕ハ飛翔ノ際ニ能ク小蟲類ヲ捕ヘ之ヲ餌食ス



伯勞

季候ヲ逐フテ甚遠隔ノ地ニ遷移シ常ニ飛翔シ
テ地上ヲ行歩スルヲ甚稀ナリ好ンデ人家ノ屋
檐ニ巢ヲ作ル其音調ハ細クシテ震顫ス
時辰雀ハ元來亞非利加洲ナリヤ加拿利島ノ産ニシテ
其羽ハ黃色或ハ白色或ハ淡綠色ノ斑點ヲ帶ル
モノアリ性甚順良ニシテ人ニ馴レ易ク能ク籠
中ニ在リテ其卵ヲ孵ス鳴聲ハ實ニ
可憐ノ音調ヲ發スル者ナリ
伯勞ハ堅牢ナル鉤狀ノ嘴ヲ具ス此
鳥ハ蟲類或ハ蛙ヲ樹枝ニ貫刺シテ

以テ他日ノ食用ニ備フ俗ニ之ヲ伯勞ノ磔又モ
ズノクサグキト云フ

交喙ハ秋末渡来スル鳥ニシテ能ク松及樅ノ種
子ヲ食フ其嘴ハ奇異ニシテ互ニ齟齬セリ故ニ
松樹ノ子殻ヨリ種子ヲ啄出シテ食フニ適應
セリ

鳥ハ海外各國ニ於テ産セザル所ナク内國ニテ
モ隨處ニ棲息シ殊ニ都會ノ地ニ多シ羽色深黒
ニシ狡猾偷竊ノ性アリ春月播種ノ際ニハ能ク
種子ヲ啄ミ或ハ萌芽ヲ折傷ス秋天ニ及ビ穀物

果實ノ成熟スルトキハ數百群ヲ為シテ田園ニ
簇集シ損害ヲ加フルヲ少ナカラズ常ニ腐敗ノ
肉類ヲ食フ

⑤ 第四目 鷄類

此類ハ能ク地上ヲ行歩スレバ翅短クシテ高飛
スル能ハズ兩脚ニ四趾アリ又稀ニハ三趾ノモ
ノアリ頭上ニ赤色ノ肉冠ヲ戴キ羽ハ五彩ヲ具
ヘテ甚美麗ナリ大概性勇敢ニシテ能ク鬭争ヲ
為ス常ニ穀物、蟲類、草類ヲ食用セリ鷄、雉、孔雀、鳩
鴿ノ類是ナリ

鶏ハ世人ニ必要ノ家畜ニシテ其肉及ビ卵ハ食用ニ供スベシ又雄雞ハ能ク時辰ヲ報シ羽色ハ五彩ヲ具ヘテ佳美ナリ牝鶏ハ性最可憐ニシテ能ク其雛ヲ撫育ス

効用 雄雞ノ頸羽ハ拂子ニ作ルベク尾羽モ亦使用ニ供スレバ頸羽ヲ以テ第一トス

雉ハ林木多キ地方ニ棲息シ種子及小蟲類ヲ食フ身長三尺許ニシテ長尾ヲ具ヘ脚ニ距アリテ能ク闘フ羽色ハ光彩美麗ナリ

効用 雉尾ハ飾具拂子羽扇等ニ作ルベシ



孔雀ハ元来印度ノ産ナリ性勇敢ニシテ争鬭ヲ好ミ不調子ノ鋭聲ヲ發ス身長四尺許羽毛極テ鮮麗ニシテ光彩爛燦タリ尾ハ最長クシテ其端ニ眼様ノ美紋アリ其彩羽ヲ振起シ長尾ヲ開張スル時ハ真

ニ美觀ト謂フベシ

効用 羽並ニ尾ハ皆粧飾ノ材料ニ使用ス可シ
鵠屬ハ其種數多ニシテ内國隨處ニ産ス性温和
親狎ニシテ常ニ群集シ人家又ハ官殿ノ檐際ニ

巢窩ヲ造構シ穀物及種子ヲ食フ其家ニ餌養ス
 ル種属ヲ鴿ト云ヒ山林ニ棲息スル種属ヲ鳩ト
 云フ又一種傳書鴿ト稱スルモノアリ其性ハ産
 地ニ執着シテ決シテ他方ニ離散セズ他方ニ移
 スヲ有リトモ之ヲ放テバ忽チ飛去シテ故郷ニ
 歸ルヲ知ル故ニ西洋ニテハ此鴿ヲ馴養シテ
 書信ヲ遞送シ又ハ攻圍ヲ受クル城中ニ向テ音
 信ヲ通達スルコトアリト云フ

⑥ 第五目 走類

此類ハ鳥類中最大ノ者ニシテ力強ク脚長ク二

趾或ハ三趾アリ翼ニ翅羽無キヲ以テ飛翔スル
 能ハズ唯疾走スルノミ常ニ植物及蟲類ヲ食フ
 即駝鳥食火鷄等是ナリ

駝鳥ハ亞非利加ノ沙漠及曠野ニ棲息シ蟲類草
 類ヲ食フ頸脚共ニ長クシテ脚ニ二趾アリ驅走ス
 ルヲ極テ快捷ニシテ駿馬ト雖モ敢テ及バズ其

駝鳥



怒リ闘フニ及デヤ脚ヲ舉テ仇
 敵ヲ踢仆シ或ハ足ヲ以テ砂石ヲ
 後方ニ蹴擲ス之ニ中ル者ハ輒
 チ毀傷ス身長八尺許ニシテ能ク

砂地ノ孔穴中ニ巢ヲ作ル卵ノ大サ殆ント小兒ノ頭ノ如シ羽ハ黒色ニシテ白色ト灰色トヲ交ヘ體羽ハ長クシテ波狀ヲ為ス

効用 翼羽ト尾羽トハ婦人ノ衣服又ハ帽笠等ノ飾具ニ使用スルヲ以テ價甚貴シ

食火鷄ハ頗駝鳥ニ類似シテ爪哇、波羅、澳大利等ニ産ス身長五尺五寸許體ハ黒色ノ毛ヲ被リ頸ト頭トハ羽毛ナクシテ淺藍色ナリ脚ニ三趾アリ翼ハ飛翔ニ適應セス頭上ニ角様ノ瘤ヲ具有シ草類、種子、小蟲類ヲ食シテ火ヲ食フ者ニ非ズ

⑦ 第六目 涉類

此類ハ皆長脚ヲ具ス故ニ羽ヲ濕サズシテ善ク水中ヲ徒涉シ且長頸及ヒ長嘴ノ者多シトス常ニ水邊ニ在リテ小蟲、魚類、穀物等ヲ食トス鶴、鷺、鸕等ノ類是ナリ

鶴ハ種類甚多クシテ脚長ク身幹尤高シ常ニ沼澤アル地方ニ来往シテ草類、種子及小蟲、蛙等ヲ食トシ能ク高天ニ翔舞シテ清亮ナル鳴聲ヲ發ス

効用 翅羽ハ羽帶ニ作り又箭羽ニ用ヰテ上品

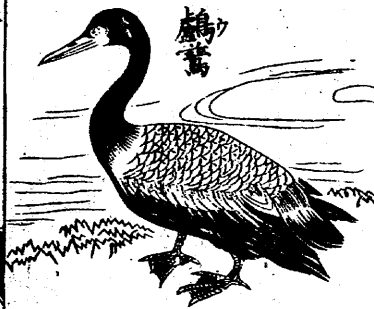
ナリ毳毛ハ綿絮ニ雜ヘテ織物トシ或ハ粧飾ノ具ニ使用ス



小魚ヲ捕ヘテ之ヲ餌食ス

鶺鴒ハ堂社ノ屋上或ハ喬木ノ枝間ニ巢ヲ營ミ沼澤ニ往来シテ魚或ハ蛙ヲ食トス

⑧ 第七目 游類 一名掌足類

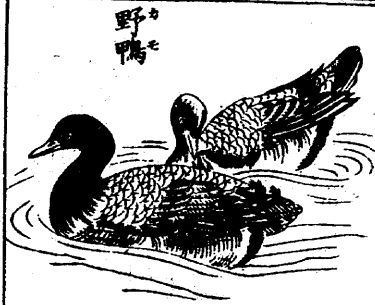


此類ハ俗ニ水鳥ト稱シテ其頸長ク脚短シ嘴ハ匾平或ハ尖銳或ハ匾狹ナリ足ニ蹼アリテ能ク水上ニ浮游シ或ハ水中ニ潜没シ魚類小蟲植物ヲ食トス此類中ニハ秋ニ来リテ春ニ去ルモノアリ其肉ハ大抵食用スベシ鶺鴒、雁、野鴨、家鴨、鵝

鶺鴒ノ類是ナリ

鶺鴒ハ善ク游泳シ巧ニ水ヲ潜リテ魚類ヲ捕ヘ之ヲ食トス身長一尺五六寸羽ハ黒色ナリ性貪食ニシテ飽クヲ知ラス此鳥ヲ馴養

シテ香魚ヲ捕ヘシムル者アリ之ヲ鵜飼ト云フ
 効用 羽ハ鷗繩ト稱スル漁具ニ加ヘテ香魚及
 他魚ヲ捕フルノ用ニ供ス
 雁ハ氣候ヲ逐ヒ居住ヲ移轉シテ秋天ニ至レバ
 来リ春時ニ及ビテ去ルヲ常トス視官尤鋭クシ
 テ性戒嚴セリ其飛翔スルヤ數十百隻斜ニ連隊
 ヲ排列シテ行進ス之ヲ雁陣ト唱フ其肉味ハ甚
 佳美ナリ
 効用 翅羽ハ羽帚ニ作り又管筆トスベシ
 野鴨ハ雁ト同時ニ来去シテ嘴廣ク脚短ク常ニ



野鴨

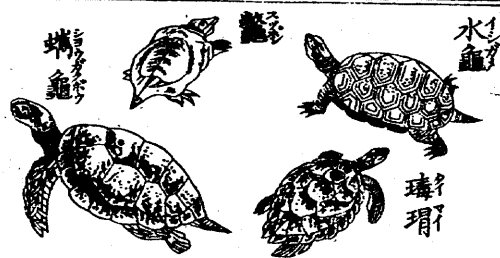
水上ニ浮游シ其飛翔スルヲ輕快
 迅速ニシテ鼓翼ノ響アリ
 効用 翅羽ハ羽帚トシ羽ハ燕子
 ニ用ナテ第一トス毳毛ハ卧褥ノ
 綿絮ニ代用シテ尤温暖ナリ
 鷗ハ一名ミヤコドリト稱ス江河ニ游泳シテ活
 魚或ハ死魚ヲ食フ其鳴クヤ頗清亮ノ高聲ヲ發
 ス武藏ノ隅田川ハ古来此鳥ノ名所トス
 鷗鷺ハ秋来リテ春去ル鳥ナリ特ニ伊勢ニ来ル
 多シト云フ常ニ能ク水上ニ浮游ス

第六編

①第三綱 爬蟲類一名匍匐蟲

爬蟲類ハ鳥類ト魚類トノ中間ニ在リテ有脊動物ノ第三階ニ位ス此綱ニ属スル者ハ冷血赤色ナレバ鳥獸ト同ジカラズ陸ニ棲ムアリ或ハ水ニ居ルアリ皆卵ヲ生ミテ砂中ニ置ク又足アリテ行歩スルモノアリ或ハ足ナクシテ匍匐スルモノアリ之ヲ分チテ四目トス即龜類、蜥蜴類、蛇類、蝦蟆類是ナリ

②第一目 龜類



此類ハ脊腹共ニ堅固ナル甲殻ヲ被ムリ頭尾四肢ハ甲ノ内外ニ伸縮出入スルヲ自由ナリ數月乃至一歳間餌食セザルモ敢テ死スルヲナク常ニ池沼若シクハ海中ニ棲息シテ時々陸上ニ爬行シ植物蟲類ヲ食トス水亀、蛇頸龜、玳瑁ノ類是ナリ水亀ハ池沼ニ棲ミ、蛇頸龜ハ海中ニ産ス、玳瑁ハ印度ノ多嶋海邊ニ多ク産生シ鼈ハ我九州邊ヲ多シトス其肉ハ甚美味ナリ

効用 水龜ノ甲ハ琢磨シテ小器具ヲ作り蟻龜
ノ油ハ諸使用ニ供スベシ又其甲ハ瑇瑁ニ代用
シテ之ヲ和鼈甲ト稱ス瑇瑁ノ甲ハ則チ真鼈甲
ニシテ櫛簪及諸器物ニ製作スベシ

第三目 蜥蜴類

此類ハ口ニ齒ヲ具シ趾ニ爪ヲ有シ皮ニ鱗ヲ被
ムリテ長尾アリ多クハ四脚ヲ有スレド稀ニハ
二脚ノ者アリ即鰐魚守宮石龍子ノ類是ナリ
鰐魚ハ亞非利加及印度熱帶地方ノ江河ニ棲息
セリ身長二丈乃至三丈許全身ニ堅鱗ヲ被ムリ



口ハ頗巨大ニシテ尖齒アリ兩
眼相接近シテ血色ヲ含ミ形狀
猙獰好シテ人畜ヲ戕害ス尾ニ
大力アリテ自在ニ之ヲ使用シ
往々小舟ヲ覆没セシメ舟人ヲ
餌食スルコトアリ

石龍子ハ穴中或ハ石岸ノ罅隙ニ棲ミテ常ニ小
蟲ヲ食ヒ其運動極メテ疾速ナリ

守宮ハ廢屋ノ壁間等ニ最多ク棲息セリ白晝ハ
潜伏シ夜間ニ至レバ出テ、小蟲ヲ食フ足ノ指

頭ニ小球アリテ能ク他物ニ附着ス故ニ天井等ノ平滑面ヲ爬行スルモ敢テ落墜スルコナシ

④第三目 蛇類

蛇類ハ水陸兩栖物ニシテ足耳鱗ナク其大小長短一ナラズ皆脊ニ鱗ヲ被ムリ腹ニ半輪狀ノ殼皮アリテ鱗次シ顫動ヲ傳遞シ以テ運動ヲ助ク故ニ足ナクシテ能ク行走シ或ハ樹枝ニ攀縁ス其口甚巨大ニシテ腹部ノ骨ハ分開スルヲ得ルユエニ自己ノ體ヨリモ四倍大ナル動物ヲ并吞スベシ蛇類ヲ分ケテ有毒無毒ノ二種トス

有毒蛇類ハ上脰ニ内空ナル二個ノ牙ヲ具ス若シ奮怒噬嚙スルトキハ此牙尖銳ニ破碎シ其空隙ヨリ毒液ヲ滲出シテ仇敵ヲ害ス其毒血中ニ浸入スル片ハ往々死ヲ速クニ足ルヲアリ凡テ蛇類ハ冷血ニシテ大概一年ニ兩回其皮ヲ脱退ス能ク世人ノ認知セルモノハ黃領蛇、蝮蛇、飯匙倩、赤棟蛇、ヒバカリノ類ナリ

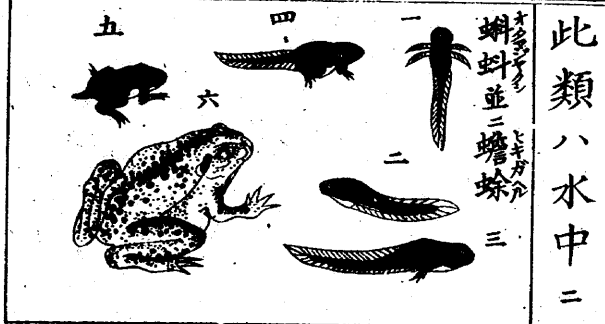
黃領蛇ハ各地ニ棲ミ人家ニ入りテ鼠ヲ捕フト雖凡人ニ向テ害ヲ為サズ又蝮蛇ノ有毒ナルハ能ク世人ノ知ル所ナリ飯匙倩ハ琉球諸島ニ産



スル毒蛇ニシテ夜間食ヲ求ム
ル為ニ出テ、屢人ヲ噬ム
リ若シ之ニ噬マル、片ハ忽腫
起劇痛シテ全身熱ヲ發シ一晝
夜或ハ二三日ニシテ死ニ至ル
ト云フ

蟒ハ亞非利加、印度、南亞米利加ニ居リ身長二三
丈乃至四丈許ナリ大概褐色ニシテ黒キ斑點ア
リ筋力ノ強大ナルヲ實ニ驚怖スベシ往々人類
及水牛、鹿等ヲ捕ヘテ之ヲ餌食スト云フ

⑤ 第四目 蝦蟆類



此類ハ水中ニ卵生ス孵化シテ蝌蚪トナリ浮游
スルヲ恰モ魚苗ノ如ク形狀モ亦
魚ニ酷肖セリ日ヲ經ルニ從ヒテ
漸々蝦蟆ニ變化ス水邊樹穴或ハ
床下ニ棲ミ小蟲ヲ食フ冬間ハ泥
中ニ蟄伏シ氣候温暖ニ及マデハ
眠リテ動カズ即蟾蜍、山蛤、錦襖子
ノ類是ナリ蟾蜍、黑魚モ亦此類ニ

属ス

第七編

①第四綱 魚類

魚類ハ有脊動物ノ第四階ニ位スル卵生冷血物
ニシテ哺乳類、鳥類ノ如ク肺ヲ以テ呼吸セズ頭
ノ兩邊ニ在ル鰓ニ由テ呼吸ヲ為ス鰭ハ水ヲ撥
キ尾ハ能ク行進ノ針路ヲ定ムル者トス此類ハ
海河、沼湖等ニ棲息シ多クハ全身ニ鱗ヲ被ムレ
ドモ或ハ厚皮又刺ヲ有スルモノアリ
効用 魚類ハ割烹用ノ外油ヲ絞リテ燈油トナ
シ其滓ハ肥料トナル

鹹水ニ棲ムモノヲ海魚ト云フ鯛、板魚、比目魚、鰻
鱧魚、海鰻、鱸魚、鯖魚ノ類ナリ河湖、沼池等ノ淡水
ニ住ムモノヲ河魚ト呼ブ鯉、鯽、鰻、鱖、鮒、鮓、香魚ノ類
ナリ其總數大約一千屬アリト云フ之ヲ刺鰭魚
類、軟鰭魚類ノ二部ニ大別スル者アリ又之ヲ左
ノ七目ニ分ツ者アリ

第一目刺鰭類

堅硬銳利ナル刺狀ノ鰭ヲ具フ
ル者即鱸魚、火魚、棘鰍ノ類

第二目軟鰭類

柔軟ノ鰭ヲ具フル者即鯉、
鯽、鰻、鱖、鮒、鮓ノ類ナリ

第三目堅鰭類

鰭骨堅硬ニシテ他骨ト固着シ
以テ動力ガザル者即河豚、翻車魚、
鱈、鰈ノ類

第四目 叢鰓類

第五目 離鰓類

第六目 固鰓類

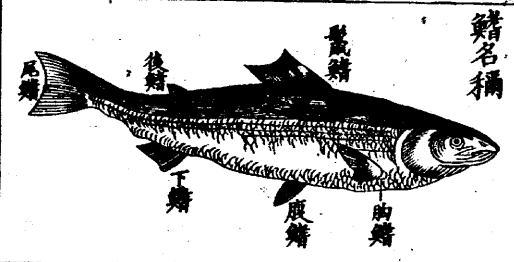
第七目 圓嘴類

略シテ尺タ其大部ノ別ノミヲ記ス

魚類ハ通常斯七目ニ區別ス然レド哺乳動物ニ
比スレバ人用ヲ為スヲ少ナキ者ナリ故ニ之ヲ

刺鰭類トハ刺狀ノ鰭多キ鱸魚、魴、火魚、沙魚、鰯
鰯、金鎗魚、鰯、鰯魚、棘鰭魚、琵琶魚、帶魚ノ類ナリ又
此類ノ中ニ生ニテ食ヒ味甚タ美ナルモノ多シ

殊ニ鰯魚ハ夏初二方テ世人多ク
之ヲ嗜食ス東京ニ於テ最甚シ又此
肉ヲ蒸シ乾カシテ木魚ヲ製ス木魚
ハ土佐、薩摩ヲ以テ最上品トス又此
魚油ハ燈油ニ用ヰ或ハ舟ニ塗リテ
鹹爛ヲ防ク實ニ必要ノ魚ト謂フベ
シ



鰓名稱

軟鰭類トハ軟カキ鰭ヲ具スル鯉、鯽、金魚、鮭、鱒、鯡、鰻魚、鰻魚、馬鯊、鰻魚、文鰻魚、泥鰻、鯰、板魚、比目魚、鰻、狀鰻、海鰻ノ類ナリ。鮭、鱒、鯡等ハ腌藏シテ諸國ニ運輸ス。北海道ノ名産タリ。鯡ノ鰾ノ乾シタルモノヲ青魚鰾ト云フ。冬春ノ際世人多ク之ヲ食フ。肝油ハ鰾ノ肝臓ヨリ製シタル油ニシテ藥用ニ供ス。刺鰾ノ肝油モ其効鰾ニ同シ。鰻魚ハ處々ノ海中ニ産ス。レド東海ニ最多シ。殊ニ上總ノ九十九里、下總ノ鉾子ハ此魚ノ漁獵極テ盛大ナリ。食用ノ外ニ魚油ヲ製シ其滓リ滓ハ

肥料ニ充ツ又干鰾モ大ニ田圃ノ培養ニ供セリ
第八編

○第二大部 無脊動物

動物ノ第二大部ヲ無脊動物トス。脊骨其他數種ノ骨ナキ動物ナリ。

無脊動物ハ有脊動物ニ比ブレバ其品位大ニ下等ナリ。第一全體ヲ構造セル骸骨ナク其他不足スル所甚多シ。呼吸、運動及血液循環ノ機關等皆不同ニシテ或ハ節多ク或ハ許多ノ肉環ヲ具ヘ或ハ殼ヲ有セリ之ヲ大別シテ多節類、柔軟類、多

正博學門
第一
肢類ノ三綱ト為ス又此三綱ヲ細分シテ左表ノ如ク數目トス然レ本編ハ其細目ヲ畧シテ只三綱ノ概略ヲ記ス

第一綱多節類

無脊

第一目環蟲類 即蚯蚓、水蛭ノ類

第二目蟹蝦類

第三目蜘蛛類

第四目昆蟲類 即蚤、蟻、蜂、蝴蝶、蜻蛉、蠅、蠍、蜈蚣ノ類

第一目首足類 即墨魚、章魚ノ類

第二目鰭足類 即鯨、鳶類

動物

第二綱柔軟類

第三目腹足類 即蝸牛、蛞蝓ノ類

第四目無頭類 即牡蠣、文蛤ノ類

第五目臂足類 即酸齋介ノ類

第六目無眼類 即烏帽介、鯨牡蠣ノ類

第三綱多肢類

第一目海盤車類 即海盤車、海膽ノ類

第二目體內蟲類 即蛭蟲、絲蟲ノ類

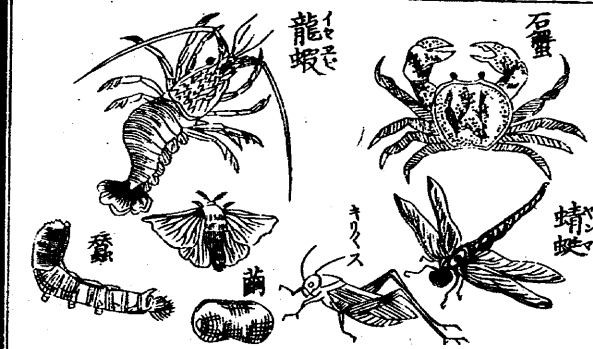
第三目水母類 即水母、海蜇ノ類

第四目植蟲類 即珊瑚、菟葵、海石ノ類

第五目顯微鏡蟲類 即顯微鏡ニ非サレバ認

第一網 多節類

識ス可ラザル至
假極細ノ動物類



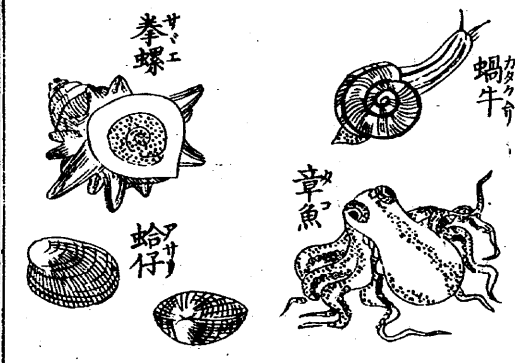
此種類ハ節多キ足アリテ堅甲
ヲ被ル蟹蝦類アリ或ハ許多ノ
肉環ヲ集合シテ躰ヲ成ス蚯蚓
水蛭類アリ或ハ羽アリテ飛ブ
蜻蛉蜂類アリ或ハ地上ニ匍匐
シ或ハ土中ニ潜匿シ或ハ水中
ニ浮游シ或ハ人體内臓中ニ産
出ス即鼠婦海蛆蜘蛛吉丁蟲螢

蛆、蛇、蟋蟀、蟲、金鐘兒、金琵琶、聒々兒、蟬、蝶、蠶、蟻、蠅、
蚤、馬陸、蜈蚣、蛇蟲、絛蟲等ナリ此中蝦蟹ノ肉ハ食
用ニ供ス可ク蠶絲ハ以テ絹布ヲ織ルベシ蜂ハ
能ク蜜ト蠟トヲ釀成シ水蛭ハ大ニ吸血ノ用ヲ
ナス皆有益ノ動物ナリ其他ハ多ク世人ノ用ヲ
為サズ

第二網 柔軟類

柔軟類トハ身躰柔滑ニシテ關節ナク或ハ貝壳
ヲ具ヘテ其中ニ潜居シ或ハ外殼ナクシテ裸體
ナリ或ハ陸ニ住ミ或ハ水ニ居ル即章魚、望潮、魚

正博物圖
鳥賊、魴魚、蛤蜊、蝸牛、田螺、拳螺、梭尾螺、蝮、文蛤、馬珂
貝、蛤蜊、蜆、魁蛤、海扇ノ類是レナリ多クハ烹炙シテ
食用ニ供シ又脯藏及腌臢シテ以テ諸國ニ輸出



ス其壳ハ種々使用ニ供セリ
鳥賊魚ハ他物ノ為ニ追逐セラ
ル、時ハ黒汁ヲ噴出シテ水中
ヲ黒闇ナラシメ之ニ依リテ能
ク其危難ヲ遁ル外國ニテハ此
黒汁ヲ以テ墨汁ヲ製ス其甲ハ
磨礪ノ用ニ供ヘ又藥用ニ充ツ

其割キテ乾シタル者ハ即錫ナリ、鰾ハ其肉ヲ薄
ク切り之ヲ乾シテ「シ」ヲ製ス又殼ハ鈕ヲ造リ
或ハ螺鈿器具ニ使用ス

梭尾螺一名法螺ハ修驗者之ヲ吹キ鳴ラシテ修
法ノ具トス故ニ法螺ト名ツク古昔ハ之ヲ吹キ
テ軍隊ヲ進退セシ「猶現今ノ喇叭ニ於ケルガ
ゴトシ」海扇ハ海上ニ浮游スル時其壳ヲ開張シ
テ帆ノ用ニ當ツ故ニ之ヲ帆立貝ト稱ス世人此
殼ヲ以テ小鍋ノ代用ニ供ス文蛤ハ大小各種盡
ク容器トスベシ蛤蜊ハ製シテ白碁子トス

④ 第三綱 多肢類

此類ハ動物中ノ最下等トス皆水中ニ棲息シ知覺至微五感全ク備ハラズ大ニ植物ニ類似セリ其中動物ニ属セルカ將タ植物ニ属セルカ判然シ難キモノアリ其形態ハ光線様ノ枝極ヲ生スル海盤車或ハ球狀ヲナス海膽或ハ樹枝様ノ珊瑚アリ世人ノ食料又ハ粧飾ニ供スルモノ少カラズ即海鼠、海膽、水母、海盤車、海花石、珊瑚、鐵樹、拂子貝ノ類是ナリ

海鼠ノ乾シタルヲ海參ト云フ其腸ヲ腌藏セシ

海鼠



海盤車



ハ海參腸ト稱ス味極メテ佳美ナリ又光參ト唱フルハ同一種ニシテ陸前金花山ノ名産ナリ

海膽ハ海中淺處ノ岩礁間ニ棲ミ形圓クシテ橘子ノ如ク刺多キヲ栗毬ニ似タリ其肉ヲ採リテ鹽ニ和シ之

ヲ雲丹ト稱ス越前ノ名産ナリ

海盤車ハ各所ノ海邊ニ産シ其色同ジカラズ其形ハ輪ナキ車輻ノ如クニシテ五個ノ枝ヲ發生セリ故ニ之ヲ人手ト呼ベリ

改正博物階梯卷之一終

珊瑚、海花石、鐵樹、拂子貝等ハ皆植蟲ト稱スル小
蟲ノ巢ナリ殊ニ珊瑚、鐵樹ハ幹アリ枝アリテ恰
モ植物ノ如シ珊瑚ニ紅白ノ二種アリ簪珠及他
ノ飾具ニハ多ク紅珊瑚ヲ使用ス昔時ハ舶來品
ノ外我國ニ於テ之ヲ採取スルハ絶エテ無カリ
シガ近來土佐ノ海中ヨリ多ク之ヲ採取ス世人
之ヲ稱シテ土佐玉或ハ土州珊瑚ト云フ

明治十四年九月廿九日板權免許
同年十二月出版

價金二十八錢

東京 同盟舎發兌章



岡山縣士族

編述者 須川 賢久

神田區西小川町
一丁目十二番地

東京府平民

出版者 青木 輔清

日本橋區濱町
三丁目十一番地

發賣書肆

大坂心齋橋北久寶寺町
尾張名古屋本町八丁目
横濱辨天通二丁目
東京日本橋通三丁目

九善商社

同	本石町二丁目	江嶋喜兵衛
同	大傳馬町三丁目	東生龜次郎
同	本町二丁目	柳河梅次郎
同	馬喰町二丁目	石川治兵衛
同	吳服町	江島伊兵衛
同	横山町二丁目	内田弥兵衛
同	日本橋通二丁目	内田芳兵衛

改正
博物階梯

須川賢久編述
小澤圭三郎校正
第二

館蔵書 教育教本日大		
室四第		
二册	九号	三函

東京
新二